



## 来年度からの法人化にあたって

学長 木村 賛

平成23年4月より、石川県立看護大学は石川県立大学と共に石川県の直属ではなく、新設される石川県公立大学法人の下に入ることとなります。県立大学であることも、経費の多くが県からくることも今まで通りですが、法人はその経費を自主的に配分し、自立的に機動的で柔軟な運営を行い、県民、学生、教職員に対してより満足度が高く、透明性の高い大学とすることが目的とされます。授業料は県議会で上限が定められますので、これも今と大きく変わることはないと思われます。

法人化のための準備手続きは順次進んでいます。しかし、実際に行ってみないとわからない部分も多く、法人化後しばらくの間は、決めていくこと、変えていくことがいろいろあると思われます。その議論や作業を皆で行っていく中から、新しい大学としての一体感が生まれることも成果の一つと考えられています。

昨年5月に本学開学十周年記念の式典を行いました。次の十年は法人化の下で新たな発展を目指すこととなります。今後とも本学の使命が、教育と研究、そして地域への貢献にあることは変わりありません。充実した教育によって、優秀な看護職者を地域に送り出し、研究に基づいた教育と地域への関わりを築いていくことが求められます。教職員、学生、そして地域の方々とともに、進んでいきたいと思えます。

### 目次

来年度からの法人化にあたって	1	日系研修事業	4
大学の主な動き		海外出張職員からのトピックス	5
平成22年度卒業式・学位授与式	2	キャンパスライフ	
卒業研究によせて	2	夏期アメリカ看護研修に参加して	6
博士・修士論文発表会	2	ねんりんピック石川2010ボランティアに参加して	6
卒業生・修了生の言葉	2	第11回 看護祭を終えて	6
退任挨拶	3	この1年を振り返って	7
新任教員紹介	3	図書館から	8
新分野「看護管理学分野」を		地域ケア総合センターから	8
大学院博士前期課程に開設	3	卒業生の内定状況	8
がん看護CNS誕生	4	キャンパススケジュール 2011年度	8
ワシントン大学学術交流事業	4		



## 大学の主な動き

### 平成22年度卒業式・学位授与式

東日本大地震から1週間経った3月19日、平成22年度卒業式・学位授与式が挙行されました。谷本知事をはじめ各界のご来賓のご臨席を賜り、看護学部卒業生90名、看護学研究科博士前期課程修了生7名、後期課程修了生1名の計98名が本学を巣立つことになりました。

木村学長は式辞で、本学の教育の中で育まれた自律的な勉学・研究の能力と、実行性のある知識と行動力を持って、急速に変化していく看護・医療などの現場で起こってくる現象およびそれに伴って要求される考え方や技術に対処していけると信じていると述べ、卒業生・修了生の前途を祝されました。在校生を代表して天池ひかるさんが卒業生・修了生への感謝の気持ちと先輩に続く決意を、卒業生総代の瀧澤理穂さんは看護の心を忘れずに情熱を持って自らが信じる道を歩んでいく決意を、また大学院修了生を代表して後期課程修了生の中田弘子さんは看護の発展に貢献していく決意を述べました。

式で斉唱した作成されたばかりの学歌の一節「地球の子守唄歌え心安らかに人々が光に包まれるまで」が大災害と重なり、心深くに沁みわたりました。支えられ、支え合いながら歩んできた数年間を振り返るこの日に、助け合うこと等の大切さを強く感じました。

学生部長 西村真実子



大学院 学位授与式



大学 卒業式

### 卒業生・修了生の言葉



もう卒業!?大学生活4年間は本当にあっという間でした。最初は興味でしかなかった看護の道も今となっては、看護の魅力にどっぷりはまってしまった私です。1・2年生の時は、本当に看護師になれるのだろうか、実習は大丈夫だろうか、上級生のように素敵な女性になれるのだろうかと考えていた事を思い出します。こんな私ももう卒業…。膨大な量のテスト、学祭の企画・運営、4ヶ月に及ぶ臨床実習、そして泣きながらパソコンに向かった卒業研究…幾度の困難を乗り越えてきました。大学外では、アルバイト、海外ボランティア、屋久島一人旅…。一気に視野が広まり、たくさんの事を感じ、考え、そしてたくさんの人との出会いがありました。今思うと辛い時や楽しい時、私のそばには友達がありました。先生・家族がいました。今ここに自分があるのは、みんなの支えがあり、そして、最後までやり抜いた自分がいたからだと思います。「辛い時こそもう一歩」この言葉を胸に新しいステージでも輝いていきたいです。みんな、ありがとー!!!

4年 寺下 めぐ美



子どもと家族の看護学分野・小児看護専門看護師教育課程に学んで2年が終わろうとしています。本教育課程が目指している専門看護師像は「子育て支援や子ども虐待予防に卓越した実践者」であり、近年の子どもと家族を取り巻く多くの問題に対して、高い専門的知識と技術を習得し効果的支援ができる能力が求められます。当初「自分に出来るだろうか」と不安を抱きました。しかし、実習において多くの子育て中の親子に出会い、また、虐待を受けた子どもたちと寝食を共にし向き合う中で、「自分の果たすべき使命」を再認識しました。大学院での多くの講義や修士論文を通して自身自身の課題と向き合うこともできました。修士論文の提出に向け辛抱強く繰り返しご指導くださった先生、また、多くの先生方や大学職員の方々のお力を得て修了をすることができました。実習でお世話になった皆様、仲間たち全ての方々に感謝し、新たな一歩を踏み出していきたいと思えます。

大学院博士前期課程2年 高橋 久子



## 退任挨拶

### 大学とは、学問とは

学長・健康科学講座 教授 木村 賛

私は本年3月をもって石川県立看護大学を去ることとなりました。本学にいた8年の間、教職員、学生、関係の皆様大変お世話になりました。自然と文化の豊かなこの地で若い学生たちとつきあい、教職員とくに今まであまり接してこなかった分野の方々とおつきあいすることができたのは、嬉しいことでした。ゆっくりではありましたが、チームを組んでおもしろい研究もできました。

私の育ちと時代背景とから、大学に対しては、教員と学生からなる学問のための自主独立共同体的な発想を持ってきました。近年の大学大衆化時代には新しい考え方が必要と言われますが、なかなかその道が見えてきません。大学が高等教育の門戸を広く開くべきことは当然としても、大学で行われることの第一は学問であることもまた当然のことではないでしょうか。

看護大学には最後に国家試験というはっきりした関門があります。それは通過しなければなりません。学問とは受験のための道具ではないと思います。いくら国家試験を通して免許を持ったとしても、そのあと自分で問題をみつけ、自分で学び、自分で考えることのできる人でなければ、職業人として進んでいけないでしょう。とくに看護師の場合はいのちとかわるのでこれが重要です。私がしばしば述べてきたことですが、大学と言うところは、学問を通じて学生がその自主性を身につける場でもあると思います。そのような学生に相對するためには、教員は研究を通して学問に研鑽し続けなければなりません。

ただし、私自身が教育の場で、自主性の高まるように、口先でいうだけでなくどれだけ行動で実践したかという、他の先生方と比べ薄かったのではないかと反省するところがあります。たとえば、本学の卒業研究はフィールド実習とならんで、自主性を養う絶好の機会ととらえています。私のところに来た卒研の学生さん達はみな優秀な方々で、結果としては私の口先の関与だけで立派に論文を書きました。このことを自主性の尊重といえは聞こえがいいですが、放任といわれても仕方がない部分はあります。もともと優秀な学生さんをさらに元気で自立した看護職者にいかに育てるかは、これからも続く課題です。



## 新任挨拶

成人・老年看護学講座（成人看護学） 北山 幸枝

平成22年9月1日に、着任いたしました。出身は隣の富山県で、医療短大入学以来、臨床の看護師から学位（修士）修得まで10年以上石川県民として過ごしました。その後、東京に居を移し、外資系医療メーカーに勤務後、本来の希望であった大学教員の仕事に就き、このたび念願であった地元への帰還？が叶いました。

専門は、創傷看護学です。手術後に離開した巨大な創傷（キズ）が、保存的ケアを行うことでみるみる治っていった臨床経験から、ヒトの自然治癒力って素晴らしい！と感動して、この学問にのめり込みました。創傷と一口に言っても、手術創、ストーマケア、様々な皮膚トラブル、高齢者の褥瘡まで多岐にわたります。

臨床での経験、臨床の疑問を研究で解明していく楽しみ、一般企業で身に着けた企画力などを生かして、成人期以降の自分を育ててもらった石川県で、新しい人材の育成に尽くしてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 卒業研究によせて

清新の気満ちる1月7日、卒業研究発表会が開催されました。数ヶ月間にわたり取り組んできた研究成果を思い思いの趣向でまとめあげたプレゼンテーションと活発な質疑応答で、各会場はアカデミックな熱気で満ちていました。下級生の参加もみられ、自分自身の卒業研究を納得のいくものにするぞ、という、静かな気迫を感じ取ることが出来ました。また、学外医療機関の皆様や先輩方にもご参加いただきました。開学10周年を経て、伝統として根付いた本学の卒業研究が、4年生自身の熱意と努力に加えて、大学を応援してくださっている多くの方々のご協力に支えられていることを改めて実感しました。この場をお借りして心より御礼を申し上げます。

皆さんにとっての研究は、卒業研究で終わりではありません。臨床をはじめとする看護職の活躍の場においては、様々な課題が山積しています。これらの課題は、より良い看護・医療をめざす、皆さん方の智慧によって解決されるのを待っています。いつも温かいサイエンスマインドを持って、周りの人と智慧を出し合って課題を解決する、そのアプローチの一つが研究であり、その成果は患者さんの利益となり、看護・医療が発展していきます。

これからも、素晴らしい卒業研究を期待しています。

卒業研究専門部会長 多久和 典子

## 博士・修士論文発表会

2011年2月17日に修士論文発表会、2月21日に博士論文発表会が開催され、大学院生がこれまでの研究成果を発表しました。本年度は、前期（修士）課程学生7名、後期（博士）課程学生1名が発表を行いました。厳正な審査の結果、全員が合格となりました。後期（博士）課程は、一昨年度に初の看護学博士2名が生まれ、昨年度は4名の博士が誕生しています。今回また、途切れることなく新たな博士号取得者を輩出できたことは非常に喜ばしいことです。おそらく、大学院生の一人ひとりが審査の過程で厳しい指摘を受け、それに対応するための加筆・修正がなされ、決して楽に合格したわけではないでしょう。

学位が授与されたということは、それぞれの研究内容が一定の水準に達していると判断されたということです。大学院修士の皆さんには、今度はぜひ学位論文を専門誌に投稿し、世に残る形で公表していただきたいと思います。そして、今後も着実な歩みを続けて欲しいと思います。

大学院教務・学生委員長 大木 秀一



## 新分野「看護管理学分野」を大学院博士前期課程に開設

平成23年度より、本学大学院博士前期課程に「看護管理学分野」を新設します。

この分野では多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い看護サービスを提供するために創造的に組織を発展させ、看護サービスの質を保証するためのヘルスケアシステムのあり方を探究するための研究能力の育成を目指します。さらに、職位に関わらずリーダーシップスキル、マネジメントスキルを発揮して、看護職者に求められている組織の掲げる様々なレベルの目標を達成できる人材育成を目指しています。なお、実務経験に応じて認定看護管理者認定審査の受験資格を得ることができます。

看護管理者の立場にある方、また看護の質改善や人材育成などマネジメントに関心をもっておられる方の入学を心より願っております。

大学院博士前期課程 看護管理学分野担当 丸岡直子

## がん看護専門看護師の認定を受けて

私は、2009年3月に大学院成人看護学がん看護専門看護師養成コースを修了し、富山県立中央病院で緩和ケアチームや地域連携の仕事に従事しています。2010年12月にがん看護専門看護師の認定を受けることができました。

がん患者の治療は、集学的治療と言われるように、複数の診療科が関わり複数の治療を重ね、治療の副作用に関しても複数の診療科が関わるといのが現状です。しかし、その中でよい連携がなければ、患者・家族は医療者のちょっとした見解の相違に不安を募らせ、精神的にも疲弊していきます。患者の治療に臨もうとする気持ちは、そこに関わる医療者との関係性に大きな影響をうけます。患者がづらい中から一筋の生きる意欲や生活の張りを見出し、その価値を認め支援していくには、患者・家族や直接ケアする看護師と自分がどのように協働していけばよいか、一例一例摸索しながら活動しています。

話しは変わり、今も大学に出向く機会がありますが、不思議なことにいつも心に沢山お土産をもらい、しあわせな気分です。それが私の活動の源でもあり、今後も大学に集う人との関係性を大切に、お互いに学び向上していきたいと思っています。



がん看護専門看護師 坂井桂子

## ワシントン大学招聘教授

2010年8月31日から9月10日まで、米国ワシントン大学のノエル・クリスマン教授が招聘教授として本学に滞在されました。クリスマン教授は、文化人類学（文化や社会を、生活様式や習慣、ものの考え方などの側面から比較研究する分野）を看護学や保健学に応用する、医療人類学という分野の先駆者の一人です。

文化人類学と保健医療は一見無関係なようですが、実は深い関わりがあります。クリスマン教授の例をあげると、「病気になるのは祖先を大切にしないからだ」と考える人が多い地域で健康増進活動を行う場合は、やみくもに科学的根拠を振りかざすよりも、祖先を大切にするという考え方を尊重する方が効果的な場合があります。

滞在中は、歓迎会・送別会・大学院の講義・公開講演・学内講演・本学院生や教員とのオフィスアワーなどが行われました。教授は、大学院の講義では「地域参加型の研究」について、公開講演では「文化を超えた看護」について、学内講演では、個々の事例を詳細に追う研究（質的研究）や複数の分野にまたがる研究（学際研究）について話されました。このような最先端の研究者との交流は、本学の研究・教育活動の質の向上に、大きな役割を果たすものであり、今後ますますの発展が望まれます。



歓迎会で、自らたてたお茶を西村教授にふるまうクリスマン教授



公開講演会の様子

国際交流委員 野村 潤

## 「タジキスタン共和国国別研修」母子の健やか支援プロジェクト つながり眉毛はタジク女性の美の象徴！

平成17年度に開始された本プロジェクトも今年度が最終年であった。総数50名近くの方が本学を拠点として石川県の母子保健の事業を学んで帰られたことになる。感慨深い。当初は、母子保健行政の責任者や病院長らが来日され、なぜ、看護師や助産師が参加できないのかと看護職の社会的地位に憂いを感じた。しかし、ひとつの国に事業を浸透させていくためには、現場の看護職だけが頑張るのではなく、行政や病院の責任者の認識を変えていく重要性を改めて実感する。少しずつではあるが、着実にタジクの周産期死亡率が減少していることを知り、これらの責任者の方々の後押しがあつてのことだと納得。JICA北陸支部の戦略である。

今年度は、第一線で活躍している助産師8名が来日された。積極的で、明るく、たくましい。歓迎パーティは双方の国の踊りと歌で始まった。そして、送別会でもこのプロジェクトの推進役であった山岸准教授のタジクの民族衣装への変身で温かい友情を確認できた。それにしても、あつながり眉毛には感動。今の流行とはまるで逆ではないか。『タジクではつながり眉は女性の美の象徴！』、壮大な歴史をもった異文化の一端に触れた気がする。今後もタジキスタン共和国とのつながりを大切にさらなる発展を願っている。



6年間の集大成、踊る山岸先生



タジクの女性美！ つながり眉

地域ケア総合センター長 川島和代



## 海外出張教員からのトピックス

### 大韓民国 国際双生児研究会議

2010年6月にソウルで開催された国際双生児研究会議 (International Society for Twin Studies: ISTS) に参加しました。この学会は、“双生児 (多胎児)” を共通の研究テーマとして、研究者と当事者組織が参加するユニークな学会です。アジアでの開催は、1992年の東京以来実に18年ぶりのことです。

一般演題を発表するとともに、日本の多胎育児支援の現状について多胎支援組織協議会 (COMBO) で報告してきました。学会期間中に、欧米諸国の多胎育児支援者やアジア諸国の研究者と懇談する機会に恵まれました。国ごとに、研究や多胎家庭支援に対していろいろな特徴があり、非常に興味深く感じます。特に、研究のためのデータの収集に関しては、個人情報の保護と公共の利益に対する国や国民の考え方が、日本と諸外国ではかなり違います。



学会会場 ソウル・グランドハイアット・ホテル

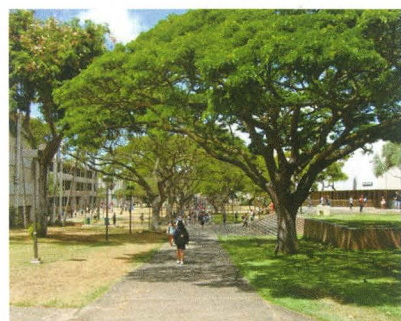
国際学会に出席すると、日本の常識が世界では必ずしも常識でないことを学びます。国内にいただけでは、どうしても狭くなりがちな視野を客観的に見直し、広げていく良い機会になります。これは研究だけではなく、一般的なものの考え方についても言えることです。

今回の出張は、学内海外共同研究費で助成を受けました。お礼申し上げたいと思います。

健康科学講座 大木 秀一

### アメリカ合衆国 ハワイ大学講義・研究打ち合わせ

2010年9月13日から19日まで、米国ハワイ大学マノア校 (University of Hawai'i at Mānoa, 以下UHM) に滞在しました。UHMは私の出身校で、今回は、大学院の講義「発達言語学」で話をしたほか、ハワイ大学の研究者との打ち合わせや文献調査を行いました。



UHMのキャンパス (Hamilton Library付近)

ハワイには日本人がとても多いように思われがちですが、実際には世界でもまれな多民族社会です。アジア各国からの移民の歴史があり、現在も、太平洋の島々・米国本土・アジアをはじめとして、世界中から人が集まります。このため、文化や言語の研究をするには最適の場所の一つでしょう。また、UHMは総合大学ですので、看護・歯科衛生学部や医学部もあります。今回は私個人の研究が目的だったためにほとんど何も見られませんでした。医療の現場や看護教育において、民族的・文化的な問題がどう扱われているのかも興味深いところです。

皆さんもハワイに行く機会があれば、平日に一度UHMに足を伸ばしてみてください。キャンパスを歩く学生の多様さや、バラエティに富んだ学食のメニューは、日本の大学ではなかなか体験できないものです。キャンパスはワイキキからバスで15分ほどです。

人間科学領域 野村 潤

### フランス 訪問看護事情視察

フランスでは、「在宅入院 (L'HOSPITALISATION À DOMICILE : HAD)」というシステムがあります。HADには事業所が設置されていますが、病院のような病室・検査室・処置室などはありません。そこには、スタッフルームや会議室、その他衛生材料や薬剤調達のための資材シテムが完備され、複数のコ・メディカルを中心とした医療職種が働いています。利用者は、医師の処方箋をもって申請します。そして、これをもとに患者宅に医療職者が訪問します。これは、日本では在宅医療にあたるものですが、日本と大きく違うのは、現在の日本では主に病院外来で行うような医療処置、たとえば化学療法・術後抜糸後ドレッシング交換・採血・心臓リハビリ等までも患者宅で行うところです。対象は、周産期から終末期までのあらゆる発達レベルにある人や、あらゆる健康レベルの医療処置 (神経難病、心疾患、術後抜糸やドレッシング交換など) に対応します。この制度は、人のライフスタイルを尊重し、いつまでも住み慣れた在宅で医療が



写真：アヴィニョン市のHADセンター (左) とその前での著者 (右)



受けられるようにする目的があるようですが、在院日数の削減や入院回避のためというようなフランス医療事情の背景もあるようです。現在フランスには、220のHAD組織がありますが、都市部で発展している反面、地方では少なく、地域によって偏りがあります。

在宅看護学講座 林 一 美



### 夏期アメリカ看護研修に参加して

夏期アメリカ看護研修に参加して私は本当に良かったと心から感じています。二週間という短い期間ではありましたが得たものは多く、たくさんの人との出会いもありました。

まず私がアメリカに行って素晴らしいと感じたことは「人の温かさ」です。アメリカの全てのバスが車イスや盲導犬を連れた人が乗車可能であり身体の不自由な人がバスに乗車した時は周りの人が席を譲り手伝うのが当たり前で、人の心の温かさを身に染みて感じました。また、アメリカの人々はバスで隣に座った際には友達のように会話をし、本当に気さくで明るく、私も多くの人と会話をする機会を得ました。



アメリカシアトルにて

このように「みんな友達」のような雰囲気がとても心地良かったです。

夏期アメリカ看護研修では、ホームステイを二週間させていただきました。私のホストファミリーはとても温かくわが子のように接してくれました。うまく英語で話せない私の話を一生懸命に聞き、理解しようとしてくれました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

この夏期アメリカ看護研修ではホームステイやアメリカの看護制度を学び、今まで経験したことのない多くのことを経験し学ぶことができました。またアメリカの看護師の看護観やアメリカのボランティア精神を知り、自分自身の視野や考え方もそれまで以上に広がったのではないかと思います。本当に充実した二週間でした。

3年 山下千尋

### ねりんピック石川2010ボランティアに参加して

10月8、9、10、11日に石川県内で開催された『ねりんピック2010』に学生ボランティアとして参加させて頂きました。『ねりんピック』とは60歳以上の高齢者を中心とする全国最大のスポーツ・文化活動・健康・福祉の祭典です。『光る汗！輝くいしかわ 笑顔の輪』をテーマに県内10市3町で様々な競技が行われました。私たちボランティアサークルは国保連の要請を受け、競技ではなく県産業展示館4号館で行われた国保連のブースで健康診断の補助をしました。

産業展示館の中では国保連の他に、子ども向けの遊具があるスペースや福祉グッズや最先端の医療を紹介するコーナー、芸能人のステージなどがあり様々な世代の方が足を運んでいました。来場者の方はブース内にあったすべての健康診断をまわっていたり、結果を熱心に見たり質問したりしていました。多くの方がご自身の健康に関心があるのだと実感しました。私はこのボランティアを通してたくさんの方と健康という側面から関わり、多くの方々の健康に対する意識の高さを学ぶことができました。この健康に対するニーズに応えられる様に、まずはたくさんの知識を身につけていかなければと思っています。また様々なボランティアに積極的に参加し、その気づきを学びに繋げていきたいです。



2年 西川花奈

### 第11回 看大祭を終えて

季節もすっかり変わり、新たな学年に向け学業に専念する今、思い返せば看大祭というイベントが、私たちにどれだけ大きなものを残してくれたことか、一つ一つを振り返るたび胸が熱くなります。昨年10月に行われた看大祭。開学10周年という記念の年であったこともあり、看大祭を盛大に、たくさんの方に足を運んでもらうことを目標に、皆で企画を試行錯誤しながら、必死に頑張っていた日々を思い出します。時にはもめたこともありましたが、今となっては全てが良き思い出です。当日は、天候が心配でしたが、私たちの思いが通じたのか、時折晴れ間も見られた小雨ですみ、たくさんの方に足を運んでいただくことができました。改善点がたくさんありましたが、無事看大祭を成功できたことは、私たちの今後の大きな糧となり、将来につながっていくと感じています。来年もまた、新たな看大祭を後輩が築き上げてくれることを期待しています。最後に地域の皆さまをはじめ、協力してくださった皆さま、本当にありがとうございました。



実行委員長 橋上まさよ



## この1年を振り返って

基礎看護学実習Ⅰは、私にとって初めての实習でした。初めてなので、正直不安でした。しかし、自らはあまり話しかけてこない実習施設利用者に声をかけてみると笑顔をみせてくれたり、寒そうにしている利用者の手を握ってみると「ぬくいね。」と微笑んでくれたときは、嬉しかったです。利用者は症状や進行の程度はそれぞれですが、皆に共通して言えることは何らかの病気を患っており、健康な私たちのように簡単に日常生活を送ることができないということです。少なからず孤独感ややるせなさを抱いている利用者の心の支えになるには、まず相手のことを知ろうという気持ちが大切なのではないかと感じました。また、それは口で言うほど簡単ではないと痛感しました。実習の反省点としては、もっと積極的にコミュニケーションをとれたのではないかとということが挙げられます。まだまだ未熟な私ですが、この振り返りを次に活かせるよう成長していきたいです。



基礎看護学実習Ⅰ  
1年 中口 友里

実習では初めて一人の患者さんを担当させていただいた。その方は弱視であり、また、臥床生活を送られていた。周りの状況が視覚から捉え辛い中で、何か力になれないかと考え、私は相手の目になろうと思った。そして、少しでも季節を感じながら過ごすことができないかと思い、車椅子に乗ることを勧めた。離床することで気分転換のみではなく、体の様々な部分にも影響を及ぼすことを学んだ。さらに、褥瘡が発生していたため、栄養状態や清潔の面でも気になることが次々として出てきた。患者さんから受け取る多くの情報を関連づけて、何ができるか悩み続けた二週間だった。しかし、患者さんの表情や「ありがとう」の言葉が何よりも自分自身の支えとなり、看護することの喜びを感じた。

技術面では、実際に清潔ケアを行なったが、学校で友達と演習することではわからなかったことが多くあった。患者さんの体と心の状態は常に変化し続けており、その時にあったケアが求められることを実感した。今回の実習では授業だけでは得られない学びが多くあり、この経験を通してこれからの学習に生かしていきたいと思った。



基礎看護学実習Ⅱ  
2年 清女谷美穂

この実習で様々な領域の患者さんに関わらせていただいて、多くの学びを得ました。特にどの領域でも重要視されたのは個別性で、患者さんが変われば看護も変わるということを実感しました。積極的に患者さんのベッドサイドへ行って話を聞くことで、段々と患者さんは自分のことを話してくれるようになります。患者さんの身体的な症状はもちろん、気持ちや生活背景を知ることが、患者さんが必要とするケア、必要となるケアを行うために大事な意味を持つこと、またその日その日で状態が変化するため、看護計画を適宜患者さんに必要な内容に変えていかなければならないことが分かりました。そして、実習という2週間だけでも患者さんに与える影響が大きいく感じました。当たり前なのですが、受け持たせていただいた後も患者さんの生活は続いていきます。そのため、2週間関わっているときだけの看護にならないよう、看護師への報告・連絡・相談が非常に大切であることが分かりました。

この実習での学びは、これから4年生になっても臨床にでても必ず自分の自信となり役に立つと思います。今回自分に残った課題を今後の学生生活で克服し、今まで以上に成長していきたいと思います。



第Ⅴ段階実習  
3年 渡辺 香葉

卒業研究の魅力は、自分の学びたい事に多くの時間をかけて納得するまで取り組めるところにあります。1年生や2年生で学んだ看護の基礎や、3年生や4年生で臨地に出て学んだ看護の実際など、それらを積み重ねてきた知識や技術の結集が卒業研究だと思います。

また、卒業研究を通じて、新たに学ぶことも多くあります。私は地域での看護活動に興味があり、「地域看護学」の分野を卒業研究のテーマとして選択しました。研究の対象フィールドを選定し、その地域について調べていく中で地域での特性や健康問題などを深く知ることができ、新たな課題も見えてきました。この経験は将来保健師として働く私にとっては大きな学びであり、とても貴重な経験であったと思います。

卒業研究は、一人で論文を書き上げる事への難しさと苦労がありますし、私も最初は手探り状態で取り組んでいました。決して簡単なものではありませんでしたが、温かく支援してくださった先生のお陰もあり、完成した卒業論文は私の財産になりました。その経験を今後の職務経験で生かしていきたいと思っています。



卒業研究  
4年 五嶋 千華

老人看護専門看護師を目指すために思い切って臨床現場の第一線を離れ、大学院生として学業に専念して1年が経とうとしています。最初は、大学院の2年間臨床実践を離れることで“現場力”が鈍るのではないかと心配していました。しかし、それを感じる余裕もなく…この1年ずっと課題や実習、研究など専門看護師課程の過密なカリキュラムに追われ続けています。また、専門看護師に求められる役割の大きさや必要とされる能力を改めて痛感しています。そのなかで、自ら学習を深めたり、先生方や現場で活躍されている老人看護専門看護師からの講義、学生間での討議を通して、今まで自分が実践してきた看護を意味付けし、振り返るとても良い機会となっています。特に認知症高齢者に対する視点や対応は、間違いなく自分のなかで大きく変わったのではないかと感じています。今後も忙しい日々が続くとありますが、ひとつひとつしっかりと身に付けていきたいと思っています。



大学院 博士前期課程  
1年 古谷 和紀



## 図書館から

ご利用については、<http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>をご覧ください。

### 重複雑誌の交換について

日本看護図書館協会の「重複雑誌交換」事業について紹介します。

上記の会員となっている看護系大学図書館、専門学校図書室、病院図書室等約120館(室)が所蔵している雑誌の中で、重複しているものを他の図書館で有効活用していただくことを目的に実施している事業です。平成22年度に本学が譲受した雑誌は61タイトル・242冊、譲渡した雑誌は38タイトル・282冊となりました。譲受された雑誌には、「Cancer science」「World council of enterostomal therapists journal」「国際保健医療」「小児科臨床」「老年歯科医学」といった学術雑誌が殆どで、学内外の看護研究者にとって大変貴重な研究資料となります。

また、本学が譲渡した雑誌は、「日本痴呆ケア学会誌」「日本認知症ケア学会誌」「日本未病システム学会誌」「老人ケア研究」といった学術雑誌が多く、今後譲渡先の図書館(室)で貴重な研究資料として有効活用されることと思います。今後も、利用者が求める資料を常に把握し、より良質なサービスを実施するため、会員同士の連携・相互の協力を強化してゆきたいと思えます。

なお、日本看護図書館協会の活動については、こちらのホームページをご覧ください。⇒<http://www.soc.nii.ac.jp/kantokyo/>

## 地域ケア総合センターから

### 1. 看護大学とかほく市との包括的連携協定締結！

昨年10月18日、本学とかほく市の間における包括的連携に関する協定を結びました。協定内容は、相互が協力して保健および福祉の向上や学術研究の推進、地域コミュニティーの発展などをめざすものです。この協定締結は、今まで、かほく市や地域住民の方と学生や教員とがさまざまな協力のもとで取り組んできた事業や研究を評価し、一層の充実に向けて可能性をひろげてくれるものと期待しています。まずは、看護大学サポーターを募集します。

### 2. 石川県看護教員養成講習会を開催！

平成23年度より3年間を目途に「看護教員養成講習会」を石川県より委託を受けて開催します。将来の看護教員や臨床における教育専任者を育成することがねらいです。養成期間は8ヶ月、総時間800時間を超える濃密なカリキュラムです。地域ケア総合センターの人材育成事業の一環として位置付けます。看護大学の人の輪、スピリットの広がりにも期待したいと思います。

## 卒業生の内定状況

### 第8期生内定状況 (平成23年3月現在)

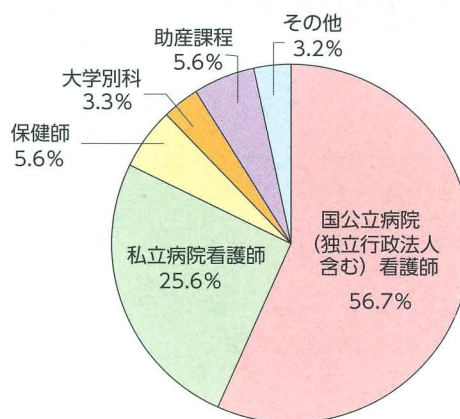
3月25日現在の就職・進学内定状況は、次のとおりとなっております。

#### <県内就職内定先>

石川県立中央病院  
金沢市立病院  
金沢大学附属病院  
金沢社会保険病院  
やわたメディカルセンター  
公立松任石川中央病院  
公立能登総合病院  
金沢医療センター  
金沢医科大学病院  
済生会金沢病院  
金沢赤十字病院  
石川県保健師  
金沢市保健師 など

#### <県外就職内定先>

湘南鎌倉総合病院  
京都大医学部附属病院  
富山県立中央病院  
国立国際医療研究センター病院  
名古屋大医学部附属病院  
国立病院機構災害医療センター  
横浜市立大学附属総合医療センター  
富山大学附属病院  
戸田中央総合病院  
千葉県立こども病院  
富山県氷見市保健師 など



## キャンパススケジュール 2011年度

### 前期

入学式	4月6日(水)
ガイダンス	4月6日(水)~4月8日(金)
健康診断	4月8日(金)
授業開始	4月11日(月)
履修登録受付	4月7日(水)~4月15日(金)
開学記念行事	5月28日(土)
開学記念日	5月29日(日)
オープンキャンパス	7月16日(土)
補講・試験	8月1日(月)~8月9日(水)
夏期休業	8月10日(木)~9月30日(金)
夏期アメリカ看護研修	8月28日(日)~9月6日(水)

### 後期

授業開始	10月3日(月)
履修登録受付	9月26日(月)~10月7日(金)
大学祭(看大祭)	10月29日(土)~10月30日(日)
冬期休業	12月25日(日)~1月7日(土)
補講・試験	2月14日(水)~3月1日(水)
春期休業	3月10日(土)~3月31日(日)
卒業式・学位授与式	3月17日(土) 予定